

# 高齢者看護実践論

単位数：2 単位

○原 祥子：地域・老年看護学講座教授  
加藤 真紀：地域・老年看護学講座准教授  
泉 キヨ子：帝京科学大学医療科学部看護学科教授

## 1. 科目の教育方針

複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、専門的知識と理論に基づいて判断し、問題解決へ向けた看護援助ができる能力を開発する。また、高齢者のセルフケアを支援する看護について再考するとともに、高齢者と家族へのヘルスケア提供モデルについて探究する。

## 2. 教育目標

- 1) 複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族について、総合的なアセスメントに基づいて判断できる能力を養う。
- 2) 高齢者とその家族の健康レベルに応じた看護援助の実際を学ぶ。
- 3) コンフォート理論の高齢者看護実践への適用の実際と可能性について探究する。

## 3. 教育の方法、進め方、評価等

### 【方法と進め方】

- 1) 講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。
- 2) 関連文献をレビューしたレポートをもとにプレゼンテーションを行い、最新の研究・実践の動向を踏まえた討論を展開する。

### 【評価】

プレゼンテーション内容、討論での取り組みと貢献度等により総合的に評価する。

## 4. 使用テキスト、参考文献等

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

### 【参考文献】

- 1) 上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用，きょうされん，2005.
- 2) 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション  
－ICF に立った自立支援の理念と技法－，中央法規，2004.
- 3) キャサリン・コルカバ：コルカバ コンフォート理論，医学書院，2008.
- 4) 泉キヨ子：エビデンスに基づく転倒・転落予防，中山書店，2005.

## 5. 教育内容

回	内 容	講師
1 (4/9)	高齢者特有の健康問題と生活機能障害 ・ 老年病の特徴 ・ 老年症候群	原
2 (4/16)		
3 (4/23)	国際生活機能分類（ICF）の視点に基づくアセスメントと看護 ・ ICF モデルの基本的特徴、実践的意義、今後の課題 ・ 低運動による弊害（廃用症候群）の予防・克服の具体的な進め方 ・ 目標指向的アプローチ	原
4 (4/30)		
5 (5/7)		
6 (5/14)	高齢者/家族へのヘルスケア提供モデル：コンフォート理論 ・ 高齢者看護におけるケアの枠組みとコンフォートの概念 ・ コンフォート理論の高齢者ヘルスケア実践への適用 ・ 看護師/ヘルスケア提供者のコンフォートに焦点をあてたモデルの分析 ・ コンフォート理論を活用した高齢者/家族ケアの展開 （事例検討）	加藤
7 (5/21)		
8 (5/28)		
9 (6/4)		
10 (6/11)	ICF の視点に基づく目標指向的アプローチの実際（事例検討）	原
11 (6/18)		
12	高齢者リハビリテーション看護学 ・ 概念と原理、新しい障害モデル ・ 高齢者特有のニーズの査定	泉
13		
14	高齢者の転倒予防と看護の視点 ・ 転倒リスクアセスメントツールの活用と転倒予防ケア	泉
15	高齢者看護の実践的課題と展望	原